

概要

「瀬戸デジタルリサーチパーク整備に向けた素案(以下「瀬戸デジタルリサーチパーク整備素案」という。)に示す幡中町地内の区域について、瀬戸市デジタルリサーチパークセンターを中核施設とした実現性が高い整備計画を検討し、新たな整備計画をまとめた。

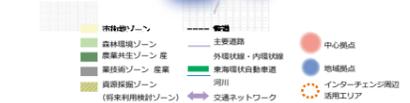
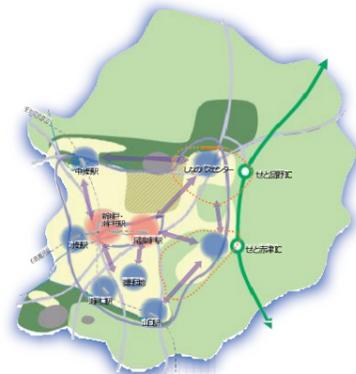
○ 整備計画の策定に至る経緯

1. 「瀬戸デジタルリサーチパーク整備素案」の概要とこれまでの経緯

- 瀬戸市は、「住みよきさわやかなまち」をめざして、昭和63年12月に「瀬戸・いきいきビジョン21」を策定した。その中で「あいち学術研究開発ゾーン」の中心的な地区として、瀬戸市南部の丘陵地に産業技術の集積地「瀬戸リサーチパーク」を計画し、第4次瀬戸市総合計画(平成6年策定)及び第4次瀬戸市総合計画改定基本計画(平成13年3月改訂)においても「瀬戸リサーチパーク」の整備を進めることとした。
- 平成14年4月に幡中町、南菱野町の約30haの中にセンターゾーン、研究開発ゾーン等の土地利用などによる、瀬戸デジタルリサーチパーク整備素案を策定し、平成15年5月に瀬戸市デジタルリサーチパークセンター(以下「DRPC」という。)を竣工、同年11月には放送事業者により瀬戸デジタルタワーが竣工された。
- 平成17年7月に計画地域内でフェロシルト(土壤埋戻し材の商品名。後に土壤環境基準を上回る六価クロム等が検出され愛知県に廃棄物処理及び清掃に関する法律に基づく措置命令が出された。)の埋設が明らかになり、事業者が全量撤去することとなった。
- 第5次瀬戸市総合計画(平成18年3月策定)で当地域を工業系ゾーンと位置付け、新産業育成、研究開発の拠点としてデジタルリサーチパークの整備を推進することとしたが、埋設されたフェロシルトの量が大量であり、撤去期間の長期化や撤去に伴う生活環境悪化等が懸念されることから、地域の安心・安全を確保するため撤去作業を優先することとした。
- 平成27年3月にフェロシルトの全量撤去が終了。また、瀬戸市幡中町地区フェロシルト撤去作業評価検討会で承認を受けた撤去終了から2年間の環境モニタリング調査も異常は見られず平成29年3月でモニタリング調査期間は終了。
- 地元は瀬戸デジタルリサーチパーク整備素案の実現に大きな期待を寄せており、フェロシルト撤去後の瀬戸デジタルリサーチパーク整備素案の早急な進展を求める要望書「デジタルリサーチパーク構想の前進について」を平成26年6月25日に市長あてに提出している。
- 平成14年に「瀬戸デジタルリサーチパーク整備素案」を策定してから15年が経過し、周辺の道路整備や土地利用等、様々な変化が生じている。
- 第6次瀬戸市総合計画(平成29年3月策定)において「企業誘致、先端産業誘致・育成」を掲げ、力ある地域経済の実現を目指しており、当該地区周辺を新たな企業誘致や既存産業の振興を図っていく「産業技術ゾーン」のひとつに位置付けている。
- 企業から瀬戸市内進出の問い合わせも数多く寄せられている中、当該地区は最先端の研究機関や大学等教育機関も周辺に立地し、交通アクセスも広域幹線道路等に近接しており、立地ポテンシャルの高い地区のひとつである。
- 地元からの整備を求める声がある中、市は早期の整備実現に向け、より実現性の高い計画を再度検討することが必要であると結論に至り、瀬戸デジタルリサーチパーク整備素案を一旦収束することとし、新たな整備計画の策定を行うこととした。

2. 上位・関連計画

- 「第6次瀬戸市総合計画」では将来像を「住みたいまち 誇れるまち 新しいせと」とし、より多くの人や企業に選択されるまちとなるよう、居住機能や産業機能の充実を図りながら、自然環境と調和する土地利用を促進していく。DRPC 周辺は「産業技術ゾーン」として位置付けている。
- 平成19年3月に策定した「瀬戸市都市計画マスタープラン」ではDRPC 周辺を先端産業機能の誘致を進める「産業ゾーン」として位置付けている。現在改訂を進めている都市計画マスタープランの素案では、先端産業等の産業用地としての活用を図る「土地利用誘導ゾーン(産業系)」として位置付けている。

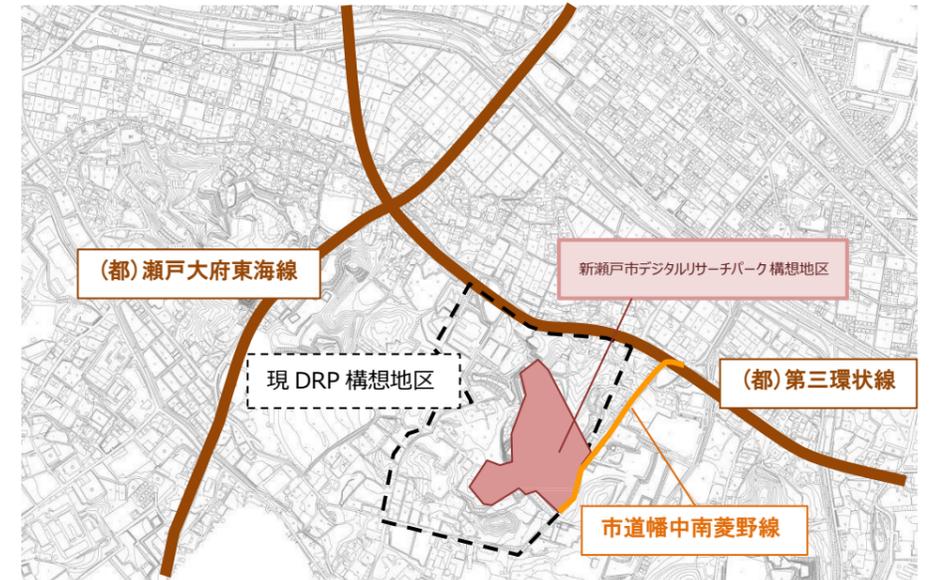


【参考】第6次瀬戸市総合計画 将来都市構造図

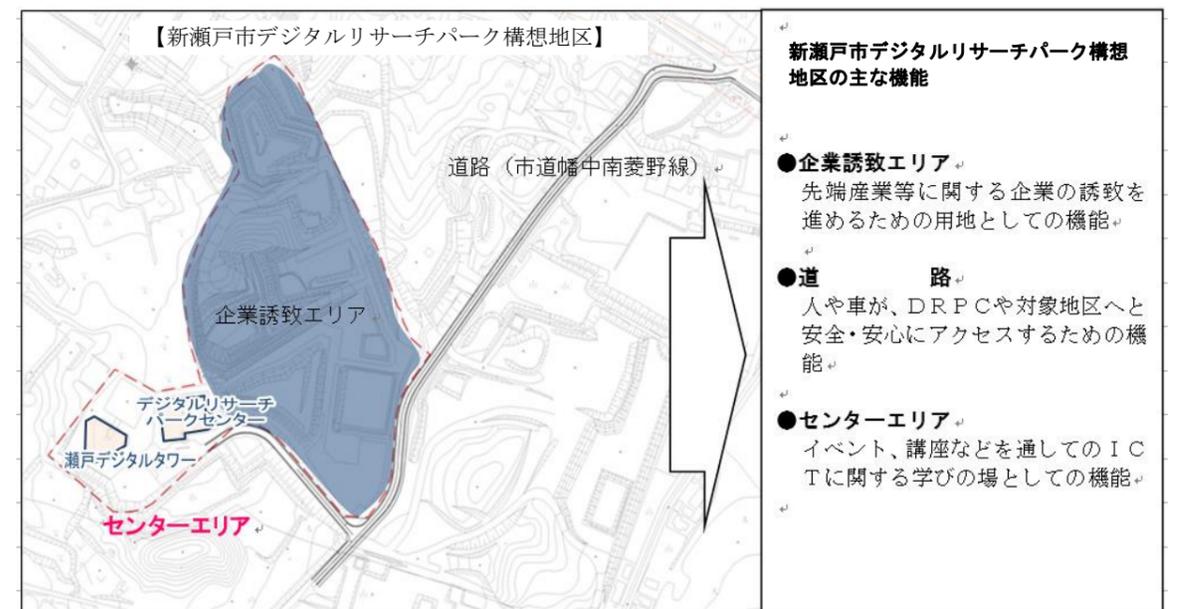
○ 土地利用等の条件及び課題の整理

1. 新瀬戸市デジタルリサーチパーク構想整備計画対象区域

- 幡山・菱野地区の特性を活かすため、土地利用等の条件や課題の整理を行うに際し、周辺の土地利用等の変化や地元の要望などから実現可能性を考え、瀬戸デジタルリサーチパーク整備素案の対象区域30haのうち、DRPC と瀬戸デジタルタワーの約1haと、DRPC に隣接し所有者が同じで未利用の一団の土地であり、民間企業が所有する約5haを合わせた約6haを対象地区「新瀬戸市デジタルリサーチパーク構想地区」として、土地利用等の状況や課題を整理。



2. 新瀬戸市デジタルリサーチパーク構想整備計画概要



- 新瀬戸市デジタルリサーチパーク構想地区の主な機能
- 企業誘致エリア
先端産業等に関する企業の誘致を進めるための用地としての機能
 - 道路
人や車が、DRPCや対象地区へと安全・安心にアクセスするための機能
 - センターエリア
イベント、講座などを通してのICTに関する学びの場としての機能